

『金槐和歌集』 伝本書目

犬井善壽

『金槐和歌集』の伝本分類、本文の吟味、諸文献所載実朝歌と『金槐和歌集』諸本の本文の關係、その他、『金槐和歌集』および実朝歌の本文流傳について、諸先覚の伝本所在報告に導かれつつ、稿者はこれまで幾つかの調査報告を試みた。その折に、調査伝本について、所蔵者名を掲げるのみで、その書誌的事項は全くといってよい程触れずに済ませた。しかし、『金槐和歌集』の本文調査としては、先ずそれを報告すべきであった。

その不備を補填する意味で、管見に入つた伝本の書誌的事項の内、本文に關する検討に密接に關わる事項、即ち、外題・内題・書写奥書・校合奥書・所載歌数（補入等を含む）・巻・冊数を、簡潔に掲示するものである。伝本揭示は本論集第十集所載の拙論「『金槐和歌集』伝本分類私考」に示した系統分類・系列細分順とし、その稿の発表後の検討により伝本の順を修正して揭示する。その稿の後に検討した数本は適切な位置に配する。それら数本の位置付けに關する証明は済ませていないが、繁雑であり、各伝本の分類のための根拠事実は旧稿と殆ど同一でもあり、省略に従う。

伝本名の下方に示す各本の略号は、前掲旧稿その他『金槐和歌集』に關する拙論旧稿に共通して用いている略号である。参考のため揭示する。奥書等における改行は、特に示す必要のある箇所のみ「/」印で示す。なお、柳営重槐本系統に載る「柳営重槐」の識語は諸本に異文があり、貞享版行本所載本文を底本として各本の異文を示し、傍線を付す。また、奥書等に示されている和暦年号には、西暦年号を算用数字で注記する。

◆定家所伝本系統◆定家所伝本系列

藤原定家所伝本（岩波書店刊 複製ニヨル）

（略号）
（定家）

外題、金槐和哥集。内題、ナシ。尾題、ナシ。

奥書、建曆三年（1213）十二月十八日（藤原定家筆）

末尾注記、かまくらの右大臣家集（終丁表ノ面ノ右下方）

所載歌数、六六三首。一卷一帖。

函館市中央図書館蔵本（新典社原典シリーズ³）複製ヲ参照スル（函）

外題、金槐集。内題、ナシ。尾題、ナシ。

建曆奥書、建曆三年（1213）十二月十八日

末尾注記、かまくらの右大臣家集（終丁裏ノ面ノ右下方）

箱裏貼紙、右定家卿自筆之本冷泉院殿三有之利常御所望候て御書写口

ハ池田松斎筆おくこひの（うた）よをさむミかものはかひにいふうた

より板津左兵衛筆也 寛永十三（1636）七月ニ永原土佐守致拜

領もの也（「うた」ハ右行間補入）

所載歌数、六六三首。一卷一帖。

斎藤茂吉蔵本（『源実朝』所掲一ノ二番、六六〇ノ六六三番検討）（斎）

外題、鎌倉右大臣家集。内題、ナシ。尾題、ナシ。

建曆奥書、建曆三年（1213）十二月十八日

末尾注記、かまくらの右大臣家集（終丁表ノ面ノ右下方）

卷冊数、一卷一帖。

田中清司氏蔵本（『源実朝』所掲一ノ四番、六五九ノ六六三番検討）（田）

外題、金槐集 全。内題、ナシ。尾題、ナシ。

建曆奥書、建曆三年（1213）十二月十八日

末尾注記、かまくらの右大臣家集（終丁表ノ面ノ中央下方）

卷冊数、一卷一帖。

『古典籍下見展覧大入札会』（平成十年十一月・東京古典会）出品
松平文庫本系列

島原図書館蔵 松平文庫本

〈松〉

外題、金槐集。内題、ナシ。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。
所載歌数、六六二首。一卷一冊。

名古屋市蓬左文庫蔵 堀田文庫本

〈堀〉

外題、金槐集。内題、金槐集。鎌倉右大臣實朝家集。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。

書写奥書(一)、右實朝家集は社友廣武雅丈かりもとめ給ひて不妄に書写をこひ給へるまゝうつしまいらせて侍りきこれによて又みつからもうつしとめ侍るもの也

寛保三癸亥年（1743）十月廿三日午時書写之功畢 岩庵虚齋

書写奥書(二)、右一書は水室香長の君出府の折から洋令胤臣うしの自書の

一本を借り得て印をして写さしむ

千時寛政六甲寅のとし（1794）仲澣四日遂写功翌月校合せしに
本書写誤とおほしき所々に愚案の及ふたけは朱をもて傍書して疑を為す猶未決の所には別に朱書して張置もの也 七十六叟 紀知之

所載歌数、六六〇首。一卷一冊。

水府明德会彰考館徳川博物館 彰考館文庫蔵（巳一四）本

〈彰〉

外題、金槐集（合綴諸書ノ外題ト並記）。内題、金槐集 鎌倉右大臣家ノ集。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。

所載歌数、六六〇首。一卷一冊。

合綴、土御門院百首・順徳院百首・田上集。

国立公文書館 内閣文庫蔵（二〇一・四五六）本

〈内〉

外題、金槐和歌集「鎌倉右大臣ノ實朝公集（細字割注）」。内題、金槐

集 鎌倉右大臣實朝家集。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。
所載歌数、六六二首。一卷一冊。

群書類従本系列

群書類従 卷三三二 版行本（架蔵黒川真頼旧蔵本）

〈類従〉

外題、羣書類従 二百卅二。内題、群書類従卷二百卅二 検校保己一集 和歌部八十七 家集五（以上『西宮左大臣御集』ノ前）金槐和歌集 鎌倉右大臣實朝公。尾題、羣書類従卷二百卅二。建曆奥書、ナシ。

校合奥書、右鎌倉右大臣集以一本及流布印本校合了

所載歌数、六五三首。「一本及印本所載歌」、六六首。一卷一冊。

同卷合綴、西宮左大臣御集

石川県立図書館蔵 川口文庫本

〈石〉

外題、金槐和歌集 全。内題、金槐和歌集 鎌倉右大臣實朝公。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。

校合奥書、右鎌倉右大臣集以一本乃流布印本校合了

購入覚書、右金槐和歌集寫本一卷類従本系統 于本郷街求者也 昭和九年（1934）十二月日 於茗荷谷僑居 南風居（下三川口久雄氏ノ「南風居」ノ印アリ）（末尾「一本及印本所載歌」ノ後方）

所載歌数、六五三首。「一本及印本所載歌」、五五首。一卷一冊。

ノートルダム清心女子大学附属図書館蔵 黒川文庫本

〈黒〉

外題、金槐和歌集。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。所載歌数、六五三首。「一本及印本所載歌」、ナシ。一卷一冊。

犬井架蔵 群書類従系写本

〈犬〉

外題、金槐和歌集。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。校合奥書、右鎌倉右大臣集以一本及流布印本校合了

所載歌数、六四六首。「一本及印本所載歌」、六五首。一卷一冊。

石川県立図書館蔵 鏡石文庫本

〈鏡〉

外題、金槐和歌集 鎌倉右府御集。内題、金槐和歌集 鎌倉右大臣實朝公。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。

校合奥書、右鎌倉右大臣集以一本及流布印本校合了

書写奥書、右羣書類従「于時檢校保己一集苗字／花輪江戸住文化年中編

(細字割注)」第二百三十二卷西宮左府御集次ニ金槐集を以爲一卷依

抜書之畢 于時天保四年(1833)九月廿一日 石橋榮親

所載歌数、六四八首。「一本及印本所載歌」、六六首。一卷一冊。

津市図書館蔵 橋本文庫本

〈橋〉

外題、金槐集 全。内題、ナシ。尾題、ナシ。建曆奥書、ナシ。

書写奥書(一)、此本雖誤多寫之畢 重而可考者也 于時万治元年(16

58)閏十二月書之

書写奥書(二)、右ハ鎌倉右府公實朝之集也 文化改元(1804)之夏

五月 於浪華城山里凡寫之 野呂雲山

所載歌数、六四八首。「一本及印本所載歌」、ナシ。一卷一冊。

◆柳営重槐本系統◆貞享四年版行本

貞享四年版行本(架蔵本)

〈貞享〉

外題、鎌倉右大臣家集 上(中下)春夏秋冬(恋・雉／神祇)。内題、

金槐和歌集 卷之上(中下)。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集。

尾題、上(中)巻終(下巻ニハ尾題ナシ)。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳営重槐判

(実朝略歴等アリ)

刊記、貞享四丁卯歳(1687)仲夏上浣 北村四郎兵衛板行

所載歌数、七一九首。三卷三冊。

(補1)私家集大成底本大森版書肆名、二条通寺町入／大森太右衛門刊行

(補2)諸伝本 貞享四年版行本

ノートルダム清心女子大学附属図書館蔵 仲田顕忠書入本 その他

真淵評語書入貞享四年版行本

静嘉堂文庫蔵 吉川忠英所持本菅原夏蔭転記本 その他

貞享版行本系統

秋田県立図書館蔵本

〈秋〉

外題、鎌倉右大臣家集 上(中下)巻。内題、金槐和歌集 卷之上(中

下)。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集。尾題、上(中)巻終。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳営重槐判

(実朝略歴等アリ)

刊記転載、貞享四丁卯歳(1687)仲夏上浣 北村四郎兵衛板行

所載歌数、七一九首。三卷三冊。

宮城県図書館蔵 伊達文庫(伊九一一・二四八・一一)本

〈達〉

外題、金槐和歌集。内題、金槐和歌集 卷之上(中下)。春部部立名下

方、鎌倉右大臣実朝卿家集。尾題、上(中)巻終。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳営重槐判

(実朝略歴等アリ)

刊記転載、貞享四丁卯歳(1687)仲夏上浣 北村四郎兵衛板行

所載歌数、七一九首。三卷一冊。

南砺市立福光図書館蔵 得能文庫本

〈得〉

外題、鎌倉右大臣家集 全。遊紙表扉題、鎌倉右大臣家集。巻首題、金

槐和歌集卷之上(中下)。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝家集。尾題、

上(中)巻終。合点を付す歌あり。但、真淵評語本の合点とは異なる。識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々。然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

(実朝略歴等アリ)

刊記転載、貞享四丁卯歳(1687)仲夏上浣 北村四郎兵衛板行
書写奥書、文政六とせ(1823)といふ年のなかつきにかゝせのあつ
よしのをうつしとりぬ ふときますつら(同文庫蔵同装幀『小町家集』ノ書写奥書ニ「婦登支の郷(卿?)ノ精齋益貫」トアリ)。
所載歌数、七一九首。三卷一冊。

秋月郷土館蔵本

外題、實朝歌集(原裝表紙左上方外題部分破損ニツキ表紙右方ニ朱筆打付書)。内題、金槐和歌集 卷之上(中下)。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝公哥集。尾題、上(中)巻終。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々。然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判
所載歌数、七一九首。三卷一冊。

東海大学付属図書館蔵 桃園文庫本

外題、ナシ(題箋欠)。内題、金槐和歌集卷之上(中下)。尾題ナシ。識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々。然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

槐判

(実朝略歴等アリ)

所載歌数、七一九首。三卷一冊。

相愛大学相愛女子短期大学図書館蔵 春曙文庫本

外題、金槐和歌集。見返付箋注記、伏水宮御連枝御筆。内題、金槐和歌

集 卷之上(中下)。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集。尾題、上(中)巻終、下之終。識語、ナシ。巻末注記、繁宮致子筆(本文ト別筆) 所載歌数、七一九首。三卷一冊。

東洋大学付属図書館蔵本

外題、金槐和歌抄。内題、金槐和歌集 卷之上(中下)。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集。尾題、中巻終。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云云。然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

(実朝略歴等アリ)

書写奥書、文化三丙寅(1806)夏日写之 榮慶

所載歌数、五〇六首(秋部一九六番ノ歌以後冬部マデ欠)。三卷一冊。真淵評語本系列(巻首ニ賀茂真淵ノ序アリ。合点ヲ付ス歌アリ)

茨城大学付属図書館蔵 菅文庫本

外題、ナシ(題箋剥離)。内題、金槐和歌集 卷之上(中下)。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集(「卿」ニ「公」ト朱校)。尾題、上(中)巻終。

書写覚書、右板本に奥書とも有愚なる書さま益なし仍不写(朱書)

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々。然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

(実朝略歴等アリ)

刊記転載、貞享四丁卯歳(1687)仲夏上浣 北村四郎兵衛板行
校合奥書、享和二年(1802)三月中旬以堤氏蔵本校合畢 光満

書写奥書、文政六癸未年(1823)四月廿五日以小田氏蔵本寫 重清

所載歌数、七一九首。三卷一冊。

(洋)

(菅)

川越市立中央図書館蔵本

〈川〉

外題、鎌倉右大臣貫朝公集 全（表紙右方ニ「真淵翁校合」ト朱書）。内題、金槐歌集 卷之上（中下）（右ニ「真淵翁校合」ト朱書）。春部部立名下方、鎌倉右大臣夷朝公集。尾題、上（中）巻終。識語、ナシ。

（実朝略歴等アリ）

刊記転載、貞享四丁卯歳（1687）仲夏上流

所載歌数、七一八首。三巻一冊。

西尾市岩瀨文庫蔵本

〈岩〉

外題、手入本鎌倉右大臣家集 上（中下）春夏秋冬（恋・雑下神祇）。内題、金槐和歌集 卷之上（中下）。春部部立名下方、鎌倉右大臣夷朝卿歌集（「卿」ニ「公ホ」ト校合）。尾題、上（中）巻終。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳営亜槐判

（実朝略歴等アリ）

刊記転載、貞享四丁卯歳（1687）仲夏上流（別行）北村四郎兵衛板行

書写奥書（一）、文化十一年（1814）五月二日以賀茂翁春郷自筆之校本

写所 源真濃

書写奥書（二）、同年（1814）八月十九日源真濃校本書写了 伴直緯

書写奥書（三）、（上巻）ふんせいとうのとし（1827）やよい廿日あま

り五日の日うつしをはりぬ 土居氏

書写奥書（三）、（中巻）ふんせいとうのとし（1827）卯つき二日の日

うつしおほりぬ 土居通徳写

書写奥書（三）、（下巻）ふんせい十のとし（1827）うつき八日うつし

をはりぬ 土居通徳写

旧蔵者署名、主人荷完堂（裏表紙左下方）

所載歌数、七一九首。三巻一冊。

お茶の水図書館蔵 成實堂文庫本

〈實〉

外題、鎌倉右大臣家集 上中下。表紙ニ「加茂真淵批評入」ト朱書。内題、金槐和歌集 卷之上（中下）。春部部立名下方、鎌倉右大臣夷朝卿家集（「卿」ニ「公」ト朱校）。尾題、ナシ。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳営亜槐判

（実朝略歴等アリ）

書写奥書、蓬壺登山人寫之 以清（見返ニ徳富蘇峰筆大正壬戌（一十

年・1922）ノ文アリ）

所載歌数、七一九首。三巻一冊。

尾鷲市中央公民館郷土室蔵 中村山土井家文庫本

〈土〉

外題、金槐和歌集 上中下 完。内題、金槐和歌集卷之上（中下）。尾題、上巻終（中下巻ナシ）。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳営亜槐判

（実朝略歴等アリ。コノ内、系図部分ハ朱筆抹消）

刊記転載、貞享四丁卯歳（1687）仲夏上流 北村四郎兵衛板行写

校合覚書（一）、明和九（1772）四月以加茂真淵朱点本校合畢（巻首見

返、朱筆）

校合覚書（二）、此一冊本書はことの意もえ知らぬ人漫に写おきけむよむに

したかひて所々筆をくハへぬ 天明五年（1785）初夏上旬 楠

比古二校（巻末ニ載ル真淵ノ文ノ後方）

所載歌数、七一九首。三巻一冊。

成田山仏教図書館蔵本

〈成〉

外題、鎌倉右大臣家集。内題、金槐和歌集 卷之上(中下)。春部部立
名下方、鎌倉右大臣夷朝公家集。尾題、上(中下) 卷終。識語、ナシ。

(実朝略系図等アリ)

所載歌数、六九五首。三卷一冊。

東京大学総合図書館蔵 文久三年本

(東)

外題、金槐哥集。内題、金槐哥集 鎌倉右大臣夷朝公家集。尾題、ナシ。

識語、ナシ。

書写奥書、文久三年(1863)十二月写 萱園

所載歌数、七一七首。三卷一冊。

無窮会専門図書館蔵 平沼文庫本

(平)

外題、金槐和歌集。巻頭目次、春部 百參拾二首 夏部 四十七首 秋

部 百三十二首 冬部 九十七首 恋部 百五十六首 雑部 百五十六

首 計七百貳拾首。内題、金槐和歌集 鎌倉右大臣夷朝公家集(「脚

ニ「公」ト校)。尾題、ナシ。

古ナシ(朱) 也古(朱)

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々
然最初雜部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳菰並槐判

(実朝略歴等アリ)

校合奥書(上巻)、天保十二年(1841)辛丑二月十一日吉川忠英か

もたる古本よみ合せぬ 藤原夏陸(朱書)

校合奥書(中巻)、吉川忠英かもたる古本にむかへていさゝか記しつく

藤原夏陸(朱書)

校合奥書(下巻)、天保十二年(1841)吉川忠英か古本をもてむか

へ正しぬ 藤原夏陸(朱書)

刊記転載、貞享四丁卯歳(1687)仲夏上浣(別行)北村四郎兵衛板行

書写奥書(一)、昭和十二年(1937)八月上旬以こう一校番加之畢

〇〇又〇又〇點可心附者也 青木信寅

「夏陸(前田)」「真淵(賀茂)」「略歴」「日本人名辞典」抜書アリ。

書写奥書(二)、右昭和丁丑(十二年・1937)秋九月中浣據静嘉堂蔵本

書写畢 桃山老樵

所載歌数、七一九首。三卷一冊。

犬井架蔵 真淵評語書入本

(井)

外題、金槐和歌集。内題、金槐和歌集 卷之上。春部部立名下方、鎌倉

右大臣家集(右ニ「實朝公」トアリ)。尾題、ナシ。識語、下巻欠卷ニ

ツキ有無・本文不明。

所載歌数、四〇一首(上巻ノミ。古今集本歌一首誤入)。一卷一冊。

東北大学附属図書館蔵 狩野文庫本

(狩)

外題、金槐和歌集 上下。内題、金槐和歌集 卷上(中下)。春部部

立名下方、鎌倉右大臣家集(右ニ「實朝公」トアリ)。尾題、ナシ。識

語、ナシ。

所載歌数、七二〇首(古今集本歌一首誤入)。三卷一冊。

(静)

外題、金槐哥集。内題、金槐哥集 卷之上(中下)。尾題、金槐哥集上

(中)之卷終。識語、ナシ。

所載歌数、七一五首。三卷一冊。

水府明德会彰考館徳川博物館 彰考館文庫蔵 小山田与清写本 (小)

外題、金槐集 賀茂翁校本 上中下。扉題、金槐集 賀茂翁校本 上中

下。巻首題、金槐和哥集 卷之上(中下)。尾題、金槐哥集上(中下)

之卷終。識語、ナシ。

書写奥書、加茂縣居翁評鎌倉右府家集 以村田織錦翁蔵本写

レ之、松屋主人與清「花押」

所載歌数、七一五首。三卷一冊。

甲南女子大学図書館蔵本

〔甲〕

外題、金槐和歌集 全。内題、金槐和歌集 卷之一（二三）。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集（「卿」ニ「公」ト朱校）。尾題、金槐和歌集卷之中。識語、以下ノ通り載り、人名部分以外ハ、朱線抹消。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

書写奥書、此哥書の中に丸く朱もて哥の上にしるせしハ縣居翁のものし

おかれしたる也又朱もて哥詞をあげつらひたるハ千陰大人のものせら

れしなり墨にて書入しハ今の千固うしものせしなりとそ

天保十とせあまりとし（1841）の神無月十まり三日之日うつ

しをえぬ 吉見有友

旧蔵者署名、真見淳蔵書（見返）

所載歌数、七一六首。三卷一冊。

東京大学総合図書館蔵 南葵文庫本

〔南〕

外題、金槐集 鎌倉右大臣家集 賀茂真淵評 上中下。内題、金槐和歌

集 卷之上（中下）。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集（「卿」

ニ「公」ト朱校）。尾題、金槐和歌集上（中）卷終。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

（実朝略歴等アリ）

校合奥書（一）、朱と墨もて書入たるは縣居の大人の物し給へるなり享和二

年（1802）四月十五日堤のぬし文五郎朝風の本もて校合しをはりぬ

校合奥書（二）、藍もて書るはい本校なり保己一か群書類従本なり 文化己

巳（六年・1809）二月廿日 まつもと氏安見蔵本校合畢 平重興

書写奥書、文政ふたつのとし（1819）水無月十一日故郡長雍ぬしの

本をもてうつし畢ぬ 平成「花押」

所載歌数、七一九首。三卷一冊。

上田市立図書館蔵 藤廬文庫本

〔上〕

外題、金槐和歌集 完。内題、金槐和歌集 卷之上（中下）。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集（「卿」ニ「公」ト校合）。尾題、金槐和歌集上（中）卷終。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

（実朝略歴等アリ）

所載歌数、七一九首。三卷一冊。

筑波大学附屬図書館蔵本

〔筑〕

外題、ナシ。内題、金槐哥集 卷之上（中下）。尾題、金槐哥集上（中

下）之卷終。識語、ナシ。

書写校合奥書、享和元（1801）六月起筆七月功畢 同七月四日再校

畢 源道州「花押」

所載歌数、七二〇首（重複一首）。三卷一冊。

国文学研究資料館蔵 初雁文庫本 天保四年本

〔初〕

外題、真淵翁書入本 金槐和歌集 合卷。内題、金槐和歌集 卷之上

（中下）。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集。尾題、上（中）卷

終。識語、ナシ。

書写奥書、此一本 真淵翁書を得手寫者也 梅垣真葛 天保四年巳

（1833）三月十三日

所載歌数、七〇五首。三卷一冊。

大阪市立大学学術情報総合センター蔵 森文庫本

〈森〉

外題、ナシ。内題、金槐和歌集。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集。尾題、金槐倭歌集卷終 都合七百九首。識語、ナシ。

所載歌数、七二〇首（重複一首）。三卷一冊。

国文学研究資料館蔵 初雁文庫本 天保十四年本

〈雁〉

外題、縣居翁書入寫 金槐和歌集 全。内題、金槐和歌集 卷之上（中下）。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝公家集。尾題、ナシ。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎

（実朝略歴等アリ）

書写奥書、天保十四年（1843）秋七月 源忠雄

校合奥書、弘化二年（1845）十月一枝

所載歌数、七一九首。三卷一冊。

鹿児島大学附属図書館蔵 島津家玉里文庫本

〈玉〉

外題、金槐和調集 全。内題、金槐和歌集 卷之上（中下）。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝卿家集（末尾三文字ニ「公哥集 真淵本」ト校合）。尾題、金槐和歌集上（中）卷終（下巻尾題ナシ）。

識語、右之一帖者鎌倉右大臣家集京極中納言定家卿門弟此道之達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎

（実朝略歴等アリ）

書写奥書、安免康須赤十阿萬里五登勢止伊婦登志（天保十五・1844）

能志波須十日安満利八日宇津志於邊奴 安留志美奈毛止乃多々由岐

所載歌数、七一九首。三卷一冊。

中川文庫本系列

祐徳稻荷神社寄託 中川文庫本

〈中〉

外題、金槐集。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。

識語、右一帖者鎌倉右大臣・集也京極中納言定家・此道・達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎

書写奥書、明暦二年（1656）十一月廿五日 於爐下一校畢

所載歌数、七二七首。三卷一冊。

宮城県図書館蔵 伊達文庫（伊九一・二四八・一三）本

外題、金槐集 實朝公。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。

識語、右一帖者鎌倉右大臣・集也京極中納言定家・門弟此道・達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎

（実朝略歴等アリ）

所載歌数、七二七首。三卷一冊。

篠山鳳鳴高校蔵 青山文庫本

〈青〉

外題、金槐集。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。

識語、右一帖者鎌倉右大臣・集也京極中納言定家卿門弟此道・達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎

（実朝略歴等アリ）ソノ後『夫木抄』ノミニ載ル歌一八首ヲ付載

所載歌数、七二七首。三卷一冊。

国立公文書館 内閣文庫蔵（二〇一・四五五）本

外題、金槐和歌集。内題、金槐和歌集（下方ニ「鎌倉右大臣家集也」ト

朱書）。尾題、ナシ。

識語、右一帖者鎌倉右大臣・集也京極中納言定家・此道・達者云々

然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎

（実朝略歴等アリ）

所載歌数、七二七首。三卷一冊。

国立歴史民俗博物館蔵 高松宮旧蔵本

〈高〉

外題、金槐和歌集。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。

◆秀逸本系統◆ (巻頭二賀茂真淵「鎌倉右大臣の歌を見て記せる詞」)

〈秀岩〉

識語、右・一帖者鎌倉右大臣・集也京極中納言定家・・・此道・達者云々

外題、金槐和歌集。完。内題、金槐和歌集秀逸。尾題、ナシ。

判 々然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

所載歌数、一九八首。一卷一冊。

龍谷大学大宮図書館蔵 写字台文庫本『金槐歌集秀逸』

〈秀龍〉

所載歌数、七一六首。三卷一冊。

外題、鎌倉右大臣集。内題、金槐歌集秀逸。尾題、ナシ。

宮内庁書陵部蔵本

〈書〉

外題、金槐集。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。

東海大学付属図書館蔵 桃園文庫本『金槐和歌集秀逸』

〈秀桃〉

識語、右・一帖者鎌倉右大臣・集也京極中納言定家・・・此道・達者云々

叢書名、叫芳亭叢書。外題、叫芳亭叢書 鎌倉右大臣集秀逸 賀茂真淵

々然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

選。内題、(序文前) 鎌倉右大臣集秀逸、(序文題) かまくら右大臣集

所載歌数、七一六首。三卷一冊。

秀逸、(巻首題) 金槐和歌集秀逸。春部部立名下方、賀茂真淵選。尾題、

神宮文庫蔵本

〈神〉

外題、金槐和歌集。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。

所載歌数、一九七首。一卷一冊。

識語、右・一帖者鎌倉右大臣・集也京極中納言定家・・・此道・達者云々

合綴、あかたみの拾遺・あやたり家の集抜粹(寛政四・1792奥書有)

々然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

◆佳調抜系統◆

(実朝略歴等アリ)

大分県立図書館蔵『碩田叢史』所収『金槐和歌集佳調抜』

〈佳調〉

所載歌数、七一二首。三卷一冊。

叢書名、碩田叢史。外題、碩田叢史 鎌倉右大臣家集外五種。目録題、

水府明德会彰考館徳川博物館彰考館文庫蔵(巳六〇六九一五七)本 (考)

鎌倉右大臣家集。序文題、鎌倉の右大臣の家集をよみて書つ 賀茂真淵

外題、金槐和歌集。内題、金槐和歌集。尾題、ナシ。

／ 金槐和歌集佳調抜。春部部立名下方、鎌倉右大臣実朝公家集。

識語、右・一帖者鎌倉右大臣・集也京極中納言定家・・・此道・達者云々

書写奥書、天保五年歳(1834)三月壹日鶴崎安達氏の蔵書を以寫者

云然最初雖部類在不審尚之間重而改之畢尤可為證本者乎 柳營重槐判

也 後藤直守

(実朝略歴等アリ)

所載歌数、一六四首。一卷。

取得覚書、右金槐集壹冊貞享乙丑之歳(二年・1685)取得也 與彰

合綴、袋法師繪卷物詞書・甲陽隨筆抜書・宝基角義士逸事文・頼山陽基

考館素所蔵之本頗異蓋此本為全本乎

角父を見て詠詩 詩ハなし(第二二六卷ハ以上五点ノ合綴)

所載歌数、七一七首。三卷一冊。

◆抜粹本系統◆

岩波文庫所収『鎌倉右大臣家集中抜粋』

〔抜粋〕

外題、(原典未調査)。内題、鎌倉右大臣家集中抜粋 鎌倉の右のおほまうちきみの家集の中よりぬきでたる歌。尾題、ナシ。

識語、此大まうちきみはひとりいにしへの歌のころをこのみ玉へども、はじめたるほどのならひくせのなほ残り交はれるも家の集にはあり。

さて終にかのけがらはしきことをみそぎ出たらんさまなるをぬききて奉りぬ。 賀茂真淵

所載歌数、一〇四首。一卷一冊。

◆抄出本系統◆

学習院大学図書館蔵『抄書十四』所収『鎌倉右府家集抄出』 (抄干)

叢書名、千載館抄書。外題、抄書 十四。目録題、金槐集。内題、鎌倉右府家集抄出 金槐和歌集と云 上中下三冊 / 寶曆五年 (1755)

三月 賀茂真淵序辞並評有り。尾題、ナシ。所載歌数、三五首。一冊 (諸書ト合綴)。

◆未調査書写本◆ (下方ニ示ス文献等ニ所在報告ガアル)

斎藤茂吉蔵 万治本 定家本系 『源実朝』・国書総目録

斎藤茂吉蔵 佐佐木博士惠贈本 定家本系 『源実朝』・国書総目録

斎藤茂吉蔵 尾崎雅嘉筆 真淵評語本系 他 『源実朝』

春海文庫蔵『鎌槐家集』 国書総目録

広島大学文学部蔵 瀬戸内国文写本文献目録

志香須賀文庫蔵 柳営亜槐奥 私家集伝本書目

志香須賀文庫蔵 實朝歌集 江戸中写本 私家集伝本書目

志香須賀文庫蔵 金槐和歌集 一二三 私家集伝本書目

小内一明氏蔵 柳営亜槐奥書本 私家集伝本書目

後藤重郎氏蔵 江戸写

弘文荘書目一〇所掲 貞享本系 岩田通徳写

大通寺蔵 金槐和歌集抜萃 (上田秋成自筆)

阪本龍門文庫蔵 真淵評語本系

阪本龍門文庫蔵 澤近嶺自筆書入本

講談社蔵 松宇文庫 貞享版本写

私家集伝本書目

私家集伝本書目

長島弘明氏論考

龍門文庫HP蔵書目録

龍門文庫HP蔵書目録

国文学研究資料館DB

稿者のこれまで『金槐和歌集』諸本に検討を加えた伝本分類等の結論が

諸本間の奥書・識語・書写奥書等の差異と対応していることを示し得た。

また、群書類従系列の本文が早く江戸初期に書写されたことのある事実

(橋)の書写奥書(一)、柳営亜槐本系統の伝本が貞享四年の版行以前に存

した事実(中)ノ書写奥書(考)ノ取得覚書)等重大な事実を示し得た。

先覚に『金槐和歌集』伝本の所在報告があつて稿者未見の伝本が十余本

あり、他にも伝本の所在を仄聞する。今後とも検討を継続する所存である。

[注]

1 『筑波大学平家部会論集 第十集』(平成一六年一月)

2 『藤原定家所伝本金槐和歌集』(佐佐木信綱博士解説・昭和五年一月)

3 『金槐集』(片野達郎氏解説・昭和四七年四月初版)

4 斎藤茂吉著『源実朝』(昭和一八年一月刊)

5 『私家集大成 中世I』(昭和四九年七月初版) 所収「実朝II (金槐和歌集) (浜口博章氏担当)

6 『秋成自筆稿目録』(『近世文学論輯』・平成五年六月)

〔付言〕ご所蔵書の閲覧と複写等交付をご許可賜った諸寺社・文庫・国公立図書館・大学図書館・国文学研究資料館等ご所蔵者に御礼申しあげる。

なお、先覚のご論考や文献目録、諸文庫・図書館等の公刊蔵書目録・OPACの伝本所在報告に導かれて本稿を成した。学恩を深謝申しあげる。

(いぬい よしひさ 筑波大学 教授)